

横須賀日々新聞 第52号
2016年7月3日
あなたが地域の主人公 15
テーマ：当事者会
(そこから先の社会参加)
※許可を得て掲載しています。

あなたが地域の主人公 15

「よこすか片マヒ希望の会」のバス旅行に参加した。横須賀中央駅前から大型バスで東京へ。都庁の展望台見学の後、有名な職員食堂でお昼。再びバスに乗って国立劇場で落語鑑賞という盛りだくさんなコース。脳卒中の後遺症などで半身マヒや言語障害などがある方々なので、移動には通常の3、4倍

当事者会

は時間がかかる。企画から交渉まですべて自分たちで行う活動を始めてすでに5年。仲間の親睦と自信を取り戻すことが目的だという。

一般に「片マヒの会」のような団体を「当事者会」という。福祉にかかわる方なら障がいがある方と近親者の自助互助組織を想像するが、市民活動サポートセンターには障がいに限らず、さまざまな困難を抱えた人たちの当事者会、家族会、ピアサポートグループもある。これらのグループの課題は、心身疾患、依存症、セクシャルマイノリティ、社会的差別、ひきこもりなど多岐にわたる。

先日、大人になってから自身の発達障がい気づき、自ら仲間を探してピアサポートのグループを作ったAさんにお話を聞いた。

「若いころからずっと悩んでいた生きづらさが障がいだとわかり、そこから仲間を求めるようになりました。同じような悩みを持った人がいると気づいて少し楽になりました」。自分の

そこから先の社会参加



当事者が招かれた県立保健福祉大学の「日常生活援助論」の演習＝5月26日

経験や考え方を話し、相手の話もよく聞いて、そこから自分の問題点・解決方法に気がついていくのだという。

前述の片マヒの会は、同じ悩みを抱えた当事者同士の互助組織だが、最近はその一歩先を歩き始めている。

5月26日に会の数名が県立保健福祉大学のリハビリテーション学科に招かれ、学生たちを前に講師兼演習の対象者となった。

会長・妻沼祐一さんは「自分たちの自立に役立てるためありますが、半身マヒになったからこそ、地域に社会に貢献できることがあると思うようになりました。学校の授業に企画参画して、未来を担う学生たちや学術の役に立つ。世界がどんどん広がっていくのを感じます」と語った。

片マヒの会はことし10月に、横須賀で開かれる「全国脳卒中者の集い神奈川大会」の事務局を担うという。会の成功を祈りたい。

(横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋 亮)